

令和3年6月8日

保護者の皆様

岐阜市立島小学校
校長 宇留野 博美

「まん延防止等重点措置」終了後における 感染症対策に留意した「水泳学習」について（お知らせ）

本校では、特措法に基づく「まん延防止等重点措置」終了後に、学校薬剤師の指導の下、以下のとおり新型コロナウイルス感染予防の対策・管理・指導を徹底し、児童が安心して授業に臨めるよう指導體制や水質管理をはじめとしたプール環境、更衣室の環境、消毒体制等を整えて、22日（火）より水泳の授業を実施する予定です。

ご家庭におかれましても、お子さんの登校前の健康管理を十分に行っていただき、全てのお子さん、教職員にとって、安全な水泳学習となりますようご協力をお願い致します。

なお、現在岐阜県に適用されています「まん延防止等重点措置（要請期間6月1日から6月20日）」は、6月20日（日）までを期間として要請されておりますが、今後の県内の感染状況により、さらに延長される場合、または、終了となっても、なお県内の感染状況に懸念が残ると判断した場におきましては、再度、プール学習開始の延期、または、中止をすることがあります。また、夏休みのプール開放は、行いません。

1 健康な児童・教職員が授業に参加できるよう健康観察の徹底をします

- ご家庭での確実な検温・体調報告をもとに確認した上、朝の健康観察を丁寧に行います。
- 咳や風邪、発熱等の症状がある児童は、水泳学習に参加しないよう徹底します。
- 登校後に体調不良を訴える児童は、水泳学習には、参加せず、見学学習とします。

2 密集・密接を避けて実施できるよう学習・環境の工夫・指導を徹底します

- 更衣室での「三密」「飛沫防止」を避ける工夫を行います。
 - ・更衣場所を増やす、更衣時間をずらす、更衣室内の人数を制限する、マスク着用の更衣等の取り組みを徹底して行います。
- 2学級での授業を原則とし、更衣室での更衣、プール内での学習における「密」を避けるよう、児童の学習の動線を工夫して学習をします。
- 児童相互の教え合い、補助、バディ・ペア活動など、密集・密接する活動は行いません。
- 集合や挨拶・準備運動などは、密集を避けて単学級毎行います。
- プールサイドでの休憩や待機は、密集を避けて間隔をとり、また熱中症に気を付けて短時間にします。

3 接触感染と飛沫感染を防止、熱中症対策の徹底をして学習を行います

- 必要に応じて、マイクや拡声器などを使用し、指示が全員に通るように行います。使用した機器は、使用（授業）後に消毒をします。
- 見学児童は、必ずマスクを着用し、また、見学時は、人と人との適正な距離を保って見学するとともに、帽子（日傘）を使用、日陰見学等熱中症対策に十分配慮します。
- 感染リスクの心配がある指導は控えて、2年ぶりの水泳学習のため、水に慣れる指導を優先して学習を進めます。
- プール施設内のドアノブ・更衣室等の場所は、1授業毎に「消毒・除菌・換気」を行います。またゴーグルやタオル等道具の貸し借り、ビート板の共有使用はしません。
- 3密を回避する指導と並行して、「熱中症予防」の指導も徹底して行います。
- プールサイドの暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度））が31℃を超える場合は、中止します。

4 複数教員の指導体制・消毒体制を編成して学習を進めます

- 指導者（教職員）2名がプールサイドから全体を見る（複数の指導監視体制）ようにして、児童の安全な学習を第一に指導します。
- 見学者を含め、授業に参加している児童相互の監視体制も指導します。
- プール学習開始前日までに、「安全な水泳学習」に向けて、以下のような全校学習（放送）および、その後の学年に応じた学級指導を丁寧に行い、水泳学習の安全指導を行います。
 - ・水泳授業実施前の自身の健康報告の仕方について
 - ・感染防止を意識した更衣室の使い方、更衣の仕方について
 - ・更衣後、プールへ移動する場合の注意点について
 - ・シャワー利用時の感染防止の行動の仕方について
 - ・水泳学習中、プール利用時の注意について
 - ・水泳学習中の飛沫感染の防止のための行動、注意について
 - ・マスクを外した後（準備体操終了後のシャワーから水泳後のシャワー利用まで）のマスクの扱い方、保管の仕方について
 - ・自分の健康と共に周りの人たちの健康や安全を守るために一人一人がよく考えて行動することの大切さについて

※プール使用学級を制限するため、週1～2度の水泳学習になります。

感染リスクへの備えが常態化する一方、私たちは、感染拡大に気を付けながら日常を取り戻していかなければなりません。目まぐるしく変化する新しい状況に向き合い続けてきた一年を振り返ってみると、子供たちは、よく努力して新しい生活様式を獲得していますし、新しい未来につなげる創意工夫を見つけることができています。私たちも人との距離を確保しながらも、心つながる実践を工夫して進めています。子供たちを真ん中に、目の前にいる子供の目がドキドキわくわく輝くような取り組みを工夫して、この難局を乗り越えていきたいと考えています。どうぞご家庭の皆様のお力を貸していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。